



1. 気象概況（中野市長丘地区気象ロボット観測データによる）

月間 \ 旬別	上旬		中旬		下旬		月間		コメント
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
2 月平均気温（℃）	-2.2	-1.9		-1.5		-0.5		-1.3	上旬平年比 -0.3℃
2 月降水量（mm）	23.5	16.3		34.1		14.1		64.5	上旬平年比 144%
2 月日照量（h）	52.0	48.0		44.3		44.8		137.1	上旬平年比 108%

- ◆ 1 月は、月間を通して平均気温が平年を 1℃以上上回った。氷点下 10 度以下は合計 8 日。また、降水量（降雪量）は中下旬が多く、月間では平年比 189%となった。日照時間は平年比 96%で経過した。
- ◆ 2/13 までの -10℃以下の日はここまで 16 日観測（内訳：12 月 5 回、1 月 8 回、2 月 3 回）。ここまでの最低気温は 12/28 の -16.5℃。尚、12 月に限れば 5 日と過去 5 年で 2 番目に多い。（H25～26：7 回、H17～18：12 回）
- ◆ 2/5～7 の期間は大雪と低温（放射冷却）となった。（2/5 -11.0℃、2/7 -12.0℃、2/6 14.5 mm）また、2/8 に瞬間最大 15.1m/s の強風を観測した。
- ◆ 2 月上旬は、気温帯がいずれも平年を下回った。（氷点下 10℃以下は 2 日）また、2/6 の大雪があり降水量は平年比 144%で経過した。尚、快晴の日も多く、日照時間はほぼ平年比 108%で経過した。
- ◆ 2/14～15 は大雪となり、湿った雪が降った。平地で 30～50 cmの降雪量を観測した。（2/14 11.0 mm、2/15 12.5 mm）

2. 生産の経過・病虫害発生状況・今後の対策

- ・ 生産量H26（前年対比）：サンつがる 97%、秋映 99.6%、シナノスイート 128.2%、シナノゴールド 102.6%
参考 生産量 H23 対比：秋映 142%、スイート 228%、ゴールド 135%、ふじ 129%
- ・ H27 産ふじ花芽調査によると、健全花芽率は平年並みの 64%であるが、褐変花芽率が 21%と高かった。（県内全域で高い）
- ・ 12/14～19 大雪により老木樹に枝折れ被害が発生。また、防寒処理が遅れたため、開花期以降の若木の凍害発生が懸念される。
- ・ 26 年度は、ふじの着色が良かったことや後半に玉伸びしたこと等が影響して、正品化率は昨年を上回った。ただし、自家用・加工品を含むふじ総合生産量は昨年をやや下回る見込み。（前年対比 95%見込み）
- ・ ふじの全生産量に対して、小玉・光玉等の加工仕向けの割合が非常に少なく、JA 実績で加工出荷量が前年比 65%の見込み。
- ・ H26 年度のりんご JA 出荷実績は H25 対比 95%（H24 対比 115%）となった。特にスイートの出荷量が大幅に伸びた。
- ・ ふじの日当たりの悪い枝に弱小花芽が多い。剪定時に出来るだけ日光を当てるようにしたい。
- ・ 腐らん病樹が多い。3 月に入ると、病原から胞子の飛散が始まるので、できるだけ早めに抑制処理を進める。

3. 部会トピックス（New）

- ・ 2/12 りんご半わい化現地講習会開催（at 越）
戸谷公次氏を講師に招いて、半わい化現地講習会が開催された。好天に恵まれ多くの参加があり、約 2 時間の講習会はあっという間に終了した。畔上慶一氏園で丸葉台シナノゴールド 7 年生樹を 4 本主枝の開心形に仕上げた。参加者からは多くの質問が出され、関心の高さが伺われた。

